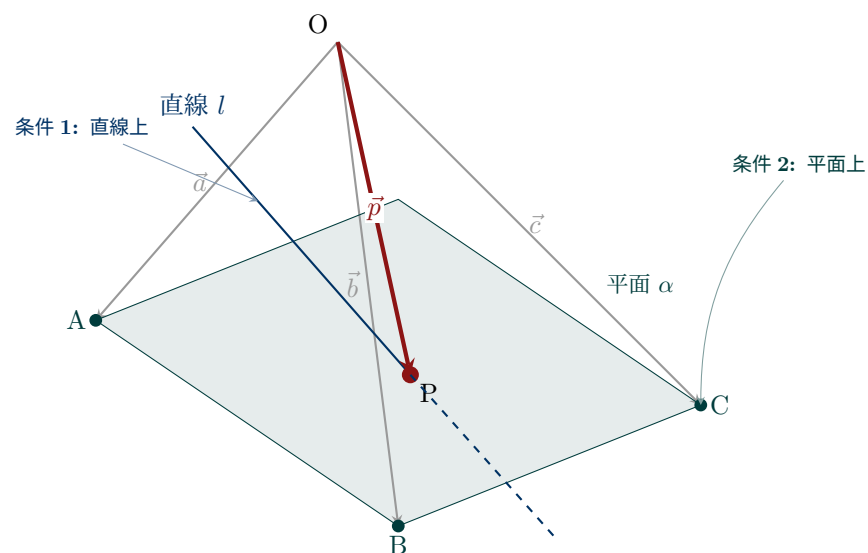


1. 交点位置決定の基本戦略

空間図形において「直線と平面の交点 P」を求める問題は、ベクトルを用いて解く最も標準的かつ重要なテーマである。点 P は「直線上の住人」であり、かつ「平面上の住人」でもある。この 2 つの条件を連立させる。



交点を求める手順

点 P が、直線 l と平面 α の交点であるとき：

(1) 直線上の条件

パラメータ k を用いて \vec{OP} を 1 通りに表す。

$$\vec{OP} = (1 - k)\vec{OA} + k\vec{OB} \quad \text{など}$$

(2) 平面上の条件

\vec{OP} を平面の基準ベクトル（基底）で表し、係数の和が 1（または係数比較）を利用して方程式を立てる。

$$\vec{OP} = s\vec{a} + t\vec{b} + u\vec{c} \implies s + t + u = 1$$

(3) 連立して解く

例題 1

四面体 OABC において、辺 OA の中点を L、辺 BC を 2 : 1 に内分する点を M とする。線分 LM を $t : (1 - t)$ に内分する点を P とする。点 P が $\triangle OBC$ の定める平面上にあるとき、 t の値を求めよ。

Memo / Answer

2. 係数比較による解法

「係数の和が 1」の条件が使いにくい場合（始点が平面上にない場合など）は、2 通りの表し方を作って係数を比較する。

ベクトルの 1 次独立

空間内の 3 つのベクトル $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ が同一平面上になく、いずれも $\vec{0}$ でないとき（1 次独立）、任意のベクトル \vec{p} は

$$\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b} + u\vec{c}$$

の形でただ 1 通りに表される。 \implies 2 通りに表せたら、係数はすべて一致する。

例題 2

四面体 OABC において、辺 OA を 1 : 2 に内分する点を D、辺 OB を 2 : 1 に内分する点を E、辺 OC を 3 : 1 に内分する点を F とする。面 ABC と直線 OG（G は $\triangle DEF$ の重心）との交点を P とするとき、 \vec{OP} を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いて表せ。

Memo / Answer

3. 図形的性質の利用

交点を求める際、「面積比」や「相似」などの平面幾何の知識が使える場合がある（メネラウスの定理など）。しかし、空間図形では断面を取り出す手間がかかるため、まずはベクトルの計算で押し切る力をつけることが重要である。

例題 3

平行六面体 OADB – CEGF において、辺 DG の中点を M、辺 OC の中点を N とする。直線 MN と平面 OAB の交点を P とするとき、 \vec{OP} を \vec{OA}, \vec{OB} で表せ。また、P は線分 MN をどのような比に外分するか。

Memo / Answer

方針：
基準ベクトルを $\vec{a} = \vec{OA}, \vec{b} = \vec{OB}, \vec{c} = \vec{OC}$ とする。平面 OAB 上にある条件は、 \vec{c} の係数が 0 になることである。

確認テスト A (基本)

練習 A1

四面体 OABC において、辺 OA の中点を M、辺 BC を 1 : 2 に内分する点を N とする。線分 MN 上の点 P が平面 OAB 上にあるとき、MP : PN を求めよ。

練習 A2

四面体 OABC において、△ABC の重心を G とする。辺 OA 上に点 D をとり、 $OD : DA = 2 : 1$ とする。直線 DG と平面 OBC の交点を P とするとき、 \vec{OP} を \vec{b}, \vec{c} を用いて表せ。

Memo / Answer

確認テスト B (標準)

練習 B1

四面体 OABC において、辺 OA を 3 : 1 に内分する点を D、辺 OB を 2 : 1 に内分する点を E、辺 AC を 2 : 1 に内分する点を F とする。3 点 D, E, F の定める平面と、辺 OC との交点を P とする。 \vec{OP} を \vec{c} を用いて表せ。また、OP : OC を求めよ。

練習 B2

四面体 OABC において、辺 AB を 1 : 2 に内分する点を L、辺 BC の中点を M、辺 OC を 1 : 2 に内分する点を N とする。3 点 L, M, N を通る平面が直線 OA と交わる点を P とする。 \vec{OP} を \vec{a} を用いて表せ。また、点 P は線分 OA をどのような比に分ける点か。

Memo / Answer

確認テスト A (基本) 【解答】

練習 A1

M : OA の中点, N : BC を 1 : 2 に内分。P は MN 上かつ平面 OAB 上。

Memo / Answer

$\vec{a} = \vec{OA}, \vec{b} = \vec{OB}, \vec{c} = \vec{OC}$ とする。 $\vec{OM} = \frac{1}{2}\vec{a}$, $\vec{ON} = \frac{2\vec{b}+\vec{c}}{3}$ 点 P は線分 MN 上にあるので, 実数 t を用いて $\vec{MP} = t\vec{MN}$ と表せる。すなわち $\vec{OP} = (1-t)\vec{OM} + t\vec{ON}$
 $\vec{OP} = (1-t)\frac{1}{2}\vec{a} + t\frac{2\vec{b}+\vec{c}}{3} = \frac{1-t}{2}\vec{a} + \frac{2t}{3}\vec{b} + \frac{t}{3}\vec{c}$ 点 P が平面 OAB 上にある条件は, \vec{c} の係数が 0 になることである。 $\frac{t}{3} = 0 \implies t = 0$ $t = 0$ のとき P は M と一致する。これでは比が求まらないため, 問題の解釈としては「平面 OAB (空間全体でなく面を含む無限平面)」との交点であり, P = M ということになる。答 P は M と一致する (0 : 1) ※ もし問題設定として N が平面外にあれば交点は M そのもの。

練習 A2

D : OA を 2 : 1 に内分。G : $\triangle ABC$ 重心。直線 DG と平面 OBC の交点 P。

Memo / Answer

$\vec{OG} = \frac{\vec{a}+\vec{b}+\vec{c}}{3}$ $\vec{OD} = \frac{2}{3}\vec{a} \iff \vec{a} = \frac{3}{2}\vec{OD}$ よって $\vec{OG} = \frac{\frac{3}{2}\vec{OD}+\vec{b}+\vec{c}}{3} = \frac{1}{2}\vec{OD} + \frac{1}{3}\vec{b} + \frac{1}{3}\vec{c}$ 点 P は直線 DG 上にあるので $\vec{OP} = (1-k)\vec{OD} + k\vec{OG} = (1-k)\vec{OD} + k(\frac{1}{2}\vec{OD} + \frac{1}{3}\vec{b} + \frac{1}{3}\vec{c})$
 $= (1-\frac{k}{2})\vec{OD} + \frac{k}{3}\vec{b} + \frac{k}{3}\vec{c}$ 平面 OBC 上にある条件は \vec{OD} の係数が 0。 $1-\frac{k}{2} = 0 \implies k = 2$
 $\vec{OP} = \frac{2}{3}\vec{b} + \frac{2}{3}\vec{c}$ 答 $\vec{OP} = \frac{2}{3}\vec{b} + \frac{2}{3}\vec{c}$

確認テスト B (標準) 【解答】

練習 B1

$D(\frac{3}{4}\vec{a}), E(\frac{2}{3}\vec{b}), F(\frac{1\vec{a}+2\vec{c}}{3})$ 。面 DEF と OC の交点 P。

Memo / Answer

点 P は辺 OC 上にあるので $\vec{OP} = k\vec{c}$ (k は実数) とおける。また, 点 P は平面 DEF 上にあるので $\vec{OP} = s\vec{OD} + t\vec{OE} + u\vec{OF}$ ($s+t+u=1$) $k\vec{c} = s(\frac{3}{4}\vec{a}) + t(\frac{2}{3}\vec{b}) + u(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{c})$
 $k\vec{c} = (\frac{3}{4}s + \frac{1}{3}u)\vec{a} + \frac{2}{3}t\vec{b} + \frac{2}{3}u\vec{c}$ 係数を比較して $\begin{cases} \frac{3}{4}s + \frac{1}{3}u = 0 \\ \frac{2}{3}t = 0 \implies t = 0 \quad \text{第 1 式より } u = -\frac{9}{4}s \\ \frac{2}{3}u = k \end{cases}$
 $s+t+u=1$ に代入して $s+0-\frac{9}{4}s=1 \implies -\frac{5}{4}s=1 \implies s=-\frac{4}{5}$ $u=-\frac{9}{4} \times (-\frac{4}{5}) = \frac{9}{5}$
 よって $k = \frac{2}{3}u = \frac{2}{3} \times \frac{9}{5} = \frac{6}{5}$ 答 $\vec{OP} = \frac{6}{5}\vec{c}$, $OP : OC = 6 : 5$ (外分)

練習 B2

L(1 : 2 内分), M(中点), N(1 : 2 内分)。面 LMN と直線 OA の交点 P。

Memo / Answer

点 P は直線 OA 上より $\vec{OP} = k\vec{a}$ 。平面 LMN 上より $\vec{OP} = s\vec{OL} + t\vec{OM} + u\vec{ON}$ ($s+t+u=1$) $\vec{OL} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$, $\vec{OM} = \frac{1}{2}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c}$, $\vec{ON} = \frac{1}{3}\vec{c}$ $k\vec{a} = s(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}) + t(\frac{1}{2}\vec{b} + \frac{1}{2}\vec{c}) + u(\frac{1}{3}\vec{c})$ 係数比較: \vec{b} の係数: $\frac{2}{3}s + \frac{1}{2}t = 0 \implies t = -\frac{4}{3}s$ \vec{c} の係数: $\frac{1}{2}t + \frac{1}{3}u = 0 \implies u = -\frac{3}{2}t = -\frac{3}{2}(-\frac{4}{3}s) = 2s$ $s + (-\frac{4}{3}s) + 2s = 1 \implies \frac{5}{3}s = 1 \implies s = \frac{3}{5}$ \vec{a} の係数: $k = \frac{1}{3}s = \frac{1}{5}$ 答 $\vec{OP} = \frac{1}{5}\vec{a}$, 線分 OA を 1 : 4 に内分する点。